

世界の人びとのためのJICA基金・業務完了報告書

1. 業務の概要:	
(1) 事業名	地域問題解決を目指した学校菜園を活用した環境教育プログラムの作成支援
(2) 実施団体名	特定非営利活動法人 環境修復保全機構
(3) 実施期間	2009年 9月 ~ 2010年 5月
(4) 実施国	カンボジア国
(5) 活動地域	カンボジア国プノンペン市およびコンポンチャム州
(6) 活動概要	
活動の背景:	
<p>* カンボジア国では 1970 年代に起きた内戦による影響が未だ残る中、輸出志向型の経済発展を目指した開発が急速に進んでいる。主要産業である農業では、生産性を高めるための化学肥料および化学農薬の大量使用が問題となっており、これらは土壌の劣化とともに水環境の汚染を進行させ、土地生産性の低下のみならず、生態系や生活環境全体にも悪影響を生じている。そのため本活動では特に環境劣化の著しい都市部のプノンペン市および農村域のコンポンチャム州を対象とした。</p> <p>* カンボジア国では、持続可能な開発のための教育の推進が急がれている。特に農村域において将来を担う全ての子供たちが、環境問題や地域社会の抱える問題に意識を持てるように、農業分野における環境教育を充実させることが、課題となっている。そのため本活動では、環境保全型農業に関心の高い小学校教員を対象とした環境教育プログラム作りを実施し、この活動を通して小学校教員の知識と技術の向上を通じたキャパシティー・ビルディングを推進した。</p>	
活動の目標:	
* 1.長期的目標	
・地域問題解決を視野に入れ環境教育を実践できる小学校教員の育成	
* 2.短期的(本活動年内)目標	
・小学校教員を対象とした「地域問題検討ワークショップ」の開催	
・「地域問題解決を目指した環境教育プログラムコンテスト」の実施	
・「地域問題解決を目指した環境教育プログラムコンテスト」における優秀プログラムの奨励	
・ガイドブック「環境教育プログラム集(案)」の作成	

2. 業務実施結果:

(1) 実施した内容

【実施内容 小学校教員を対象とした地域問題検討ワークショップの開催】

平成 21 年 10 月より、本活動についての説明をカンボジア国内の 5 校の小学校を中心に実施し、各小学校を訪問して周辺地域の抱える問題について話合う時間を設けた。平成 21 年 12 月 26 日には、プノンペン市に位置するカンボジア国王立農業大学内にある Center for Sustainable Agriculture において、5 校の小学校教員を招聘して「地域問題検討ワークショップ」を実施した。このワークショップでは、異なる状況下にあるそれぞれの小学校が抱える地域問題についての情報を共有し、小学校教員自らが地域問題の把握と解決に向けた取り組みを考えるように促した。小学校に通えない子供たちの問題については、各小学校からこれまでの事例などの発言が活発にあったが、依然として外部からの支援がなければ解決することは難しいとの結論に到達した。そのため、ただ支援に依存するのではなく、活動プログラムを作成することで、それぞれの地域問題解決にどのような具体的な効果があるのかを考察し、プログラム内容に反映させるように促した。

【実施内容 「地域問題解決を目指した環境教育プログラムコンテスト」の実施】

平成 21 年 12 月 26 日に実施した「地域問題検討ワークショップ」に参加した小学校教員を対象に、小学校における環境教育活動プログラム作りを実践し、作成したプログラムを募ってコンテストを実施した。

応募プログラムは、各小学校の学校菜園を活用した内容であるとともに、次年度に当該小学校のカリキュラムに反映できることを条件とし、優れた内容のプログラムを優秀賞として選出し、また、小学校に通えない子供たちの生活環境改善を盛り込んだ優れたプログラムに対しては、その活動の実践を奨励し活動支援金を授与することとした。

コンテストについての広報を開始してから、各小学校ではプログラム作りを開始していたが、12 月に実施したワークショップ時に一部の小学校では物品購入の見積書を作成すれば支援をもらうことができるとの誤認があったことが分かり、改めて各小学校においてコンテストの趣旨とプログラム企画書の作成について説明を行った。

平成 22 年 1 月末日までに 5 小学校より 28 プログラムの応募があり、選考を行った。選考の際には、以下のような基準をもとに、総合的な評価により審査を行った。

- 環境教育活動プログラムであるか
- 学校菜園を利用した活動内容であるか
- 小学校へ通えない子供たちへの配慮があるか
- 環境に配慮した持続的な活動内容であるか
- 小学生の参加度を意識した活動内容であるか
- 地域コミュニティや他機関と連携した活動内容であるか

【実施内容 「地域問題解決を目指した環境教育プログラムコンテスト」における優秀プログラムの奨励】

「地域問題解決を目指した環境教育プログラムコンテスト」に応募のあった28プログラムについて、平成22年2月に選考を実施し、以下のプログラムを優秀プログラムとして選定した。平成22年3月4日には、プノンペン市内にて奨励会を実施し、各プログラムの作成を奨励した。

優秀プログラム

- “Creating integrated plant garden ”
Mr. Nerm NANG of Prey Veng elementary school
- “Planting in organic garden ”
Ms. Davy NOM of Risey Sanh elementary school
- “Planting mushroom ”
Mr. Ngoun HOR of Tro Pang Bei elementary school

優秀プログラム（学校に通えない子供支援）

- “Giving the chance for children to go to school ”
Mr. Sothearith KONG of Prey Sar elementary school
- “Study of environment in local community ”
Mr. Than CHAN of Rong Kor elementary school

【実施内容 ガイドブック「環境教育プログラム集（案）」の作成】

優秀プログラムを中心として、全応募プログラムをまとめたガイドブック案を作成した。それぞれのプログラムの優れた部分について評価するとともに、各プログラムへのコメントを加え、教員が作成した実践のための経費についても記入した。今後このガイドブックが地域に即した環境教育プログラム作成の手引きとして使用されるよう普及を図る。

(2)実施成果:

平成 20 年度より本団体はプログラム「小学生及び小学校教員に対する環境教育の推進活動（国際ボランティア貯金）」を実施し、カンボジア国の都市部と農村域の小学校において環境教育啓蒙活動の展開している。その活動の中で、急速な国の発展に取り残された貧困層が拡大し、学校に通えない子供たちへの対応が遅れるなどの地域問題が顕在化していることが分かった。そこで本活動では、小学校教員のキャパシティー・ビルディングのためのサポートプログラムの必要性を鑑み、小学校教員自らが主体的に各地域の抱える問題に取り組む機会を創出することを目指し、具体的には以下の内容を実施した。

1. 小学校教員を対象とした地域問題検討ワークショップの開催:

平成 21 年 12 月 24 日～25 日にプノンペン市およびコンポンチャム州の 5 小学校を訪問して個別に活動の説明を実施し（資料 1、2、資料 5（写真 1～6））、平成 21 年 12 月 26 日には Center for Sustainable Agriculture（カンボジア国王立農業大学内、プノンペン市）に 5 小学校の小学校教員を招聘して、各小学校が抱える地域問題についての話し合いを実施した（資料 3、資料 5（写真 7～8））。

2. 「地域問題解決を目指した環境教育プログラムコンテスト」の実施:

「地域問題検討ワークショップ」に参加した小学校教員を対象に、小学校における環境教育活動プログラム作りを実践した。その結果、地域問題解決を目指した環境教育プログラムコンテストに 28 プログラムの応募があった（資料 4）。

3. 「地域問題解決を目指した環境教育プログラムコンテスト」における優秀プログラムの奨励:

審査委員会により応募のあった 28 プログラムの内容を審査し、優秀な 5 プログラムを奨励するとともに、実際の活動実施に向けての指導を行った（資料 4、資料 5（写真 9～10））。

4. ガイドブック「環境教育プログラム集(案)」の作成:

優秀プログラムを中心として、全応募プログラムをまとめたガイドブック案を作成した（資料 4）。

上記の活動を通して、主体的に環境教育を実施できる人材育成を目指したが、本活動当初は活動プログラムの作成についての理解が得られず、支援のための見積書との区別がつきにくい小学校もあったが、最終的には地域のニーズにあった優れたプログラムも作成された。このような優れたプログラムを中心に今後実際の活動に向けての支援も継続し、本活動によりカンボジア国における地域に即した環境教育の長期的実施を目指した小学校教員の能力開発及び実践的な活動を推進できたと考える。

(3)得られた教訓など:

本活動を通し、小学校教員に対して、当団体が農家を対象に実施している活動内容についての説明も行ったが、農業指導に高い興味を示し、実践的な有機農業の普及活動を行ってほしいとの要望が多く寄せられるなど、小学校教員自身の能力強化を目的とした研修に対する期待が高いことが分かった。カンボジア国においては、地域における小学生の生活環境の改善や教育の充実のみならず、小学生を教育する教員が情熱を持って教育に取り組める支援の必要性も高いと思われる。

(4)今後の活動・フォローアップの方針:

本活動終了後は、「地域問題解決を目指した環境教育プログラムコンテスト」に応募のあった優秀プログラムを中心として、各小学校で実践される環境教育プログラムへの助言等を行い、小学校教員自らが主体的に各地域の抱える問題に取り組めるよう継続して支援するとともに、作成した「環境教育プログラム集」を「持続可能な開発のための教育(ESD)」の地域拠点(RCE)における教材として活用されるよう出版を進め、本活動の成果がカンボジア国の初等教育における環境教育の普及に寄与できるよう今後の活動においても活用していきたい。

3. その他(エピソード・感想・写真など)

(1) 活動中のエピソード・感想など

環境教育プログラムの企画書には、プログラム実施に係る費用の積算項目を設けたが、一部のプログラムでは小学校教員の手当やお菓子代などが計上されていた。活動の背景やプログラム実施の目的について説明を重ねていたが、個人的な希望までも援助に頼る傾向があった。一方で、優秀プログラムとして選出されたプログラムには、他と比べるまでもなく、非常によく考えられた優れた内容であったことで、作成者について審査委員会で確認があったが、その小学校教員は当団体スタッフの個別訪問やワークショップなどで熱心に質問するに止まらず、何度も電話でプログラムの企画方法についての相談をしてきたとのことであった。これまでの本団体の活動では、訪問する小学校の校長や一部の教員との協働での実施が多かったが、今回これまで接点のなかった小学校教員とも、環境教育プログラムを作成するという活動の中で得難い交流を図れた。今後これらのプログラムの実施に向けて、環境教育の実践に熱意のある小学校教員と連携し、地域の状況に即した活動を展開していきたい。

(2) 活動の写真



写真1 小学校における小学校教員との話し合い
Prey Sar elementary school



写真2 小学校における小学校教員との話し合い
Prey Veng elementary school



写真3 小学校における小学校教員との話し合い
Risey Sanh elementary school



写真4 小学校における小学校教員との話し合い
Rong Kor elementary school



写真5 小学校における小学校教員との話し合い
Tro Pang Bey elementary school



写真6 小学校の学校菜園
Tro Pang Bey elementary school



写真7 地域問題検討ワークショップ(平成21年12月26日)
Center for Sustainable Agriculture in Royal University of Agriculture, Cambodia



写真8 地域問題検討ワークショップ(平成21年12月26日)
Center for Sustainable Agriculture in Royal University of Agriculture, Cambodia



写真9 地域問題解決を目指した環境教育プログラムコンテスト奨励会(平成22年3月4日)
Prey Sar elementary school への授与



写真10 地域問題解決を目指した環境教育プログラムコンテスト奨励会(平成22年3月4日)
Tro Pang Bey elementary school への授与